

# 令和7年度 学校自己評価

中津市立南部小学校

## 1 学校の教育目標

言葉によってつながり、自分たちで課題をとらえ解決していく児童の育成

## 2 育成を目指す資質・能力

言語能力・問題発見・解決能力

## 3 重点目標・達成指標、重点的取組等

| 評定判断基準 |             |
|--------|-------------|
| A      | …達成率90～100% |
| B      | …達成率70～ 89% |
| C      | …達成率60～ 69% |
| D      | …達成率60%未満   |

| 重点目標                     | 達成指標   | 重点的取組 | 取組指標                               | 評価   | 成果と課題、及び次期に向けての取組 |   |
|--------------------------|--|-------|------------------------------------|--|-------------------|---|
| 生きて働く知識・技能の習得            | ①単元テストの「知識・技能」で<br>1・2年生<br>70%以下の児童の割合を15%以下にする<br>3～6年生<br>60%以下の児童の割合を15%以下にする                              | 学校    | ・確かな学びの定着を図る取り組みの実施<br>(読解力の向上)    | ・担任は、C層の困りを具体的に把握し、週2回、基礎力の習熟を図る問題に取り組ませる→ゆきちタイム<br>・担任は、毎日、慣用句（ことわざや四字熟語）の音読に取り組ませる→朝の時間    | B                 | 週2回のゆきちタイムだけでなく、授業内においても基礎力の習熟を図る問題に取り組ませることができた。<br>慣用句（ことわざや四字熟語）を音読や掲示の取り組みにより、言葉に対する児童の関心が深まった。 |
|                          |  | 家庭    | ・家庭での音読の推進                         | ・保護者は、音読を聞き、読み方について褒めたり、聞いた感想を話したりする。（親学のすすめアンケート）   | B                 | 昨年度末より評価の数値があがり、音読を褒める取り組みが進んでいる。   |
|                          |  | 地域    | ・読書活動の推進                           | ・地域の方は、朝の読み聞かせの活動に参加する。（「くすのき」）  | A                 | 毎週読み聞かせの取り組みをしていただき、児童も楽しみにしている。  |
| 未知の状況にも対応できる思考力・表現力等の育成力 | ③単元テストの「思考・判断・表現」で、60%以下の児童の割合を、国語10%以下、算数25%以下にする。<br>④「友達の考え方や思いを聞き合う活動を通して、自分の考え方より深まった。」と答える児童の割合を80%以上にする | 学校    | ・みんな活躍授業における意見交流の推進<br>(言語能力の向上)   | ・授業者は様々な言葉わざを授業で提示する。<br>A (1週間で4回以上) B (1週間で3回) C (1週間で2回)                                  | B                 | 毎日言葉わざを使うことができているが、提示する言葉わざに偏りが生まれ広がりが少ない。算数を中心にみんな活躍授業はできている。                                      |
|                          |  | 家庭    | ・家庭での音読の推進                         | ・保護者は、宿題の内容を確認し、宿題の取り組み方について子どもと話し合う。（親学のすすめアンケート）   | B                 | 昨年度末より評価が落ちていて、同項目の児童アンケートの評価も下がっている。今後、強化週間を設けて啓発をする。  |
|                          |  | 地域    | ・学習支援の充実                           | ・地域の方は、年に1回は、すくすくプロジェクトのセンター授業に参加する。   | A                 | 公民館と連携をしてセンター授業が行われている。   |
| 学びを人生や社会に生かす力・人間性等の涵養    | ⑥「自分たちの学校生活目標を見直し、自分の言葉で振り返ることができた」と答える児童を80%以上にする<br>⑦「まわりの人にふわふわ言葉を使っている」と答える児童を80%以上にする                     | 学校    | ・自ら気づき行動する力の育成<br>・他者と適切につながる態度の育成 | ・教職員は、児童に生活目標を月に1回振り返りをさせ、自分の言葉で振り返りをする時間を設定する<br>・担任は、週に1回、学級活動や道徳の時間に、ふわふわ言葉に重点をおいた学習活動を行う | B                 | 児童会と連携して月目標反省の取り組みができている。2学期は言葉の使い方にこだわり、ふわふわ言葉の取り組みを全校で進める。  |
|                          |  | 家庭    | ・子どもが自ら健康的な生活を送ろうとする意識を育てる活動の実施    | ・保護者は、起きる時間と寝る時間を子どもと話し合い、子どもが決めたことを実行できるようにする。（親学のすすめアンケート）                                 | A                 | 保護者の中で、生活習慣に対する取り組みが実を結んできている。  |
|                          |  | 地域    | 見守り運動の推進                           | ・地域の方は、登下校時、休日など児童へ声かけ・あいさつをする。<br>・地域の方は、総合的な学習の一環として子どもとふれあい、地域についての学習に協力する。               | A                 | 登校・下校ともに地域の方に見守られて、登下校ができている。   |
| 働き方改革の推進                 | ⑧月あたりの超過勤務時間の平均12時間にする   | 学校    | ・業務の役割分担の適正化を図る                    | ・労働安全委員会で、在校等時間増の職員の把握を行い、月1回、業務の見直しと削減をする   | B                 | 業務改善をの取り組みを進めているが、在校時間を減らすためには人的配置を含め、さらに取り組みを進めることが必要。   |
|                          |  | 家庭    | ・「働き方改革」の共通理解                      | ・定時退庁日、学期末の成績処理時間等、働き方改革についてPTAにて保護者の理解を図る   | A                 | 保護者はとても協力的で、働き方改革に対する理解をしていただいている   |
|                          |  | 地域    | ・「働き方改革」の共通理解                      | ・定時退庁日、学期末の成績処理時間等、働き方改革についてCSにて地域の理解を図る   | A                 | 地域はとても協力的で、働き方改革に対する理解をしていただいている  |